

# 平成20年度施政方針(抜粋)

市民生活の向上・本市の将来にわたる持続的な発展のため、3つの基本方針(財政健全化の推進・京田辺市活性化プログラム)の推進・量から質への転換)をもとに編成!!

## だれもが安全・安心に暮らせるまちづくり

「まちづくりチャレンジリーダー養成講座」を開講  
妊婦健診助成の対象を拡大  
留守家庭児童会の開設時間を延長、学級数の拡大  
木造住宅耐震化工事に対する助成制度を創設  
災害時における「要配慮者支援計画」策定に向けた取り組み

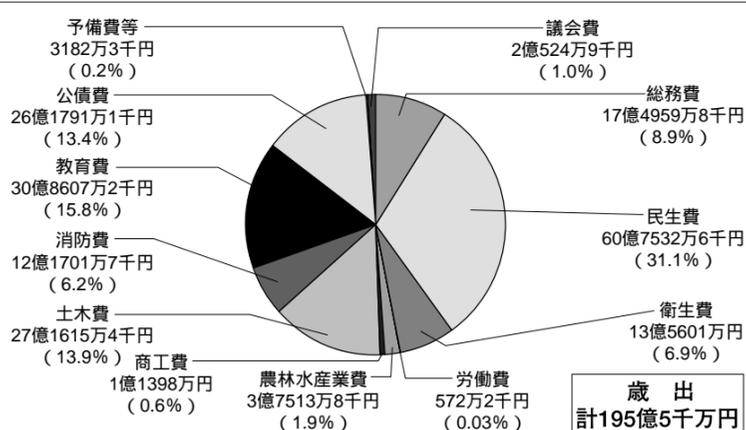
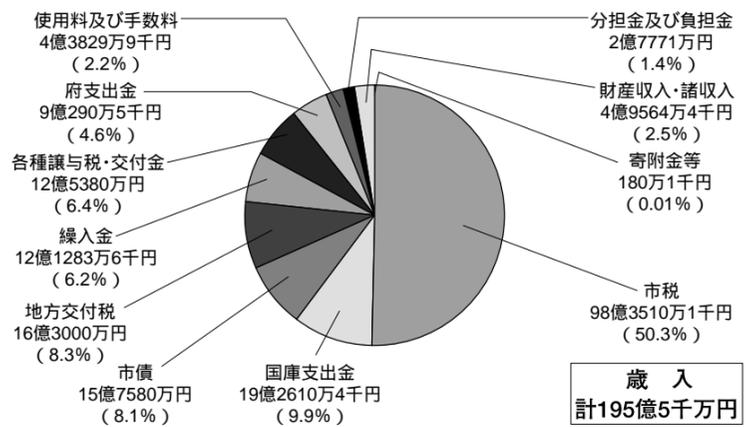
## 快適で活力に満ちたまちづくり

「自転車通行環境整備モデル地区」指定による自転車専用帯の整備  
環境パートナーシップ会議の活動やリサイクルプラザを拠点にした減量化・再資源化活動に対する支援  
地域特性を生かした作物の地産地消促進とブランド化による農業振興  
大住工専地域における工業系土地利用への支援体制を充実

## 心にうるおいのあふれるまちづくり

「開発行為等の手続等に関する条例」に基づいた調和の取れたまちづくりを推進  
学校校舎等の耐震化を計画的に推進  
田辺中学校校舎増築及び大規模改修等に着手  
移動図書館車による利便性向上など図書館サービスの充実  
「(仮称)京たなべ・同志社総合型地域スポーツクラブ」を設立

# 平成20年度一般会計予算



## 耐震改修助成制度は

### 60万円限度に4月から

民主党議員団  
(米澤 修司 議員)

●木造住宅耐震改修事業補助制度の具体的な内容と計画は、また、高齢者世帯が増えている中で耐震用ベッド等の普及や助成、倒壊すると危険なブロック塀の撤去や急傾斜地からの移転に対する助成等についての市長の考えは、  
市長 昭和56年5月以前に建築された木造住宅で耐震診断の結果、倒壊の危険が高いと判断され

されており、特別警戒区域等の指定がされると、国の支援を受けられる。

●地域防災無線のデジタル化について具体的な計画と緊急地震速報の活用についての考えは、また、集落や地域ごとの一斉放送設備を設置する考えは、  
市長 地域防災無線のデジタル化については平成21年度に工事、22年度に運用開始の予定。また同報系の機能を有する形態で計画である。緊急地震速報の活用について



災害により倒壊したブロック塀 (写真提供: 四日市市)

●平成20年度には次の高齢者保健福祉計画が策定される。高齢者は増加するが療養病床の縮小、廃止が伝えられ、在宅での介護が増加すると考えられるが市長の考えは、  
市長 現在の本市の65歳以上の高齢者人口は1万1000人、高齢化率18%であるが、平成23年度には1万3500人、19.5%に伸びると推測している。在宅介護については訪問介護や訪問看護、家庭での機能訓練等について特にサービスの充実を図りたい。

## 道路整備の財源確保は

### 国に対して強く求める

公明党  
(櫻井 立志 議員)



拡幅の要望がある市道新田辺草内線と近鉄踏切

2000万円の不足が見込まれ、今後予定している道路整備に遅れが生じる。特定財源確保を国へ地方の声として強く求めていきたい。  
●新名神高速道路の進捗状況と近鉄新田辺草内線の検討状況

田辺第1号踏切の拡幅の今後の見通しは、  
市長 平成19年度に実施した路線測量の成果をもとに予備設計を実施し、最適な案をまとめた。また、踏切については、新田辺草内線の検討状況を踏まえて、鉄道事業者との協議を行っていききたい。  
●安心・安全な通学路の確保について、今後の進め方は、  
教育長 通学路安全点検調査の結果を踏まえ、できることから取り組みたい。一方、登下校における交通ルールの遵守や防犯対策の確認など、安全教育にも力を注いでいきたい。  
●本市の救急医療体制は万全か。  
市長 緊急医療機関が近距離にあり、緊急医療情報システムの整備により、比較的スムーズな搬送、転送となっており、恵まれた状況にある。いわゆるのた回しは見られない。  
●北部地域への病院や産婦人科医院の誘致は、  
市長 北部の状況を調査の上、京都府とも相談していきたい。  
●学校工口改修と環境教育の導入の考えは、  
教育長 学校工口改修は財政的な課題等で事業化は困難であるが、壁面緑化、緑のカーテンなど児童、生徒が取り組むことができる活動について推奨していく。